

## 事業実施の背景・課題、目標

### 【事業実施の背景・課題】

**テニス人口は減少傾向**にある。2019年度のテニス環境実態調査（日本テニス協会,2020）によると、日本のテニス人口は、推定343万人とされ、2012年度の推定373万人から30万人減少している。人口が減少するなか、テニスの競技人口減少を食い止め、続的に発展して行くためにはどのような環境を構築していったらよいのだろうか。我々日本テニス協会としては「テニス人口拡大のためには、ジュニアにおける普及活動が必須であり、特にテニス体験の機会を増やす活動と**仕組みが必要な状況**である」（日本テニス協会、2023）と課題を認識している。

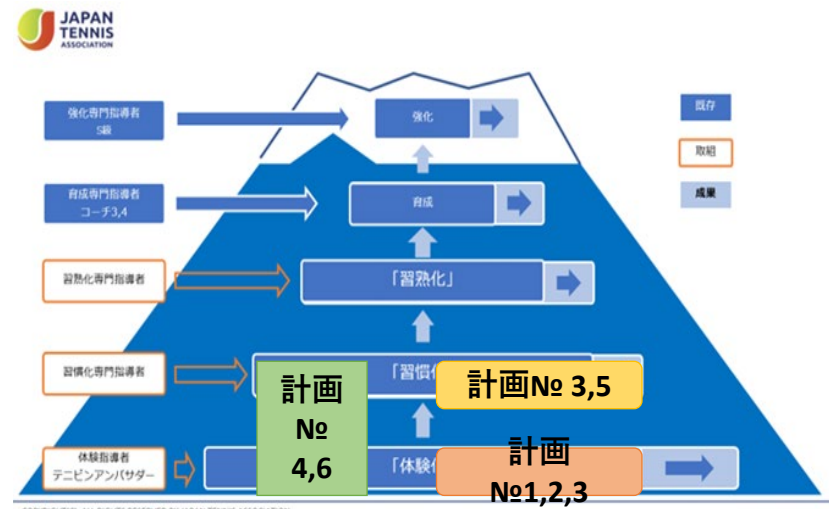
その中でも**全国の児童にテニスの面白さを体験できる機会を提供する仕組み作りが最重要課題である**。これまでTennis P&Sプログラムを活用し普及活動を展開し一定の成果を上げてきた。しかし、テニスは、サッカーやバレーボール・バスケットボールのように、小学校体育で取り上げられてこなかったことから、全国に約636万人いる児童（文部科学省,2019）がテニスの面白さに触れる機会是他種目に比べて極めて少なかった。**全国の児童にテニスの面白さを体験する機会を提供する**ことができれば、将来のスポーツ活動にテニスを選択する可能性が高まり、テニス人口拡大が期待できる。

日本テニス協会（以下,JTA）は、2018年に普及/育成/強化を連係し「拡大再生産」の好循環を生み出す戦略「日本のテニス」の中長期戦略プランを作成した。「スポーツ団体の経営力強化」事業活用した取組の中で、小学校学習指導要領改訂に合わせた体育の**テニス型学習教材「テニピン」の開発と普及**は、これまで、**テニスに触れる機会がなかった未体験・未経験者層にアプローチすることに成功した**。この活動をさらに推進し、拡大再生産のビジョンを機能させて行くためには、**事業の担い手としての指導者の養成が必須の課題**である。本事業では、**テニピンにより「体験する」、Tennis P&Sで「始める」、カラーボールにより「続ける」**の各ステージの事業を支える**人材を養成するシステムを確立**し運用することを目的とする。

### 【目標】

上記人材養成システムを確立することで、競技未体験・未経験者層へのアクセス数を増加させ、Tennis P&Sによる習慣化、そしてカラーボールマッチを通じたテニス技能の習得と習熟を進め、**低年齢からシニアに至るまでの全年齢層におけるテニスの普及によりテニス界がレジリエントな組織として持続していくための基盤構築が目標**である。

その基盤を通して、さらにテニスのスポーツとしての魅力・価値を高めることにつながると考える。競技人口の拡大は、育成・強化へと接続するだけでなく、登録及びマーケティング活動で得られる収益により組織基盤を強化し、更なる**普及活動の発展へと拡大再生産する好循環を創出**することが期待できる。



# 本事業における具体的な取組内容

## 計画№1 【人材育成】

### テニピンリーダー（指導者）の養成のための取組み

実施期間：令和4年～令和6年

取組内容：

- ・講習会（教員・コーチ対象）立案計画・実施
- ・資格認定講習会カリキュラム作成運用
- ・講習会用テキスト作成運用

## 計画№2 【認知向上】

### テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣

実施期間：令和4年～令和6年

取組内容：

- ・小学校への認知向上活動(FAX,教育媒体等を活用)
- ・用具提供、講師派遣、イベントによる実施率向上活動
- ・ガイドブック増刷及び改訂版の作成運用

## 計画№3 【認知向上】

### テニピン・カラーボールマッチ体験イベント

実施期間：令和4年～令和6年

取組内容：

- ・テニピン、カラーボールマッチ体験イベント実施

## 計画№4 【価値構築】

### テニピンの教育的価値及び教材価値向上 教本作成

実施期間：令和4年～令和6年

取組内容：

- ・出版社やテニスメーカーと連携したコンテンツ開発（教科書・動画・用具等）
- ・テニピンの学術的価値の構築
- ・テニピンのテニス育成・強化及び教育（資質能力育成）との連携プログラムの構築（サステナビリティ）
- ・テニピンの小学校展開を越えた取組（共生社会）

## 計画№5 【認知向上】

### カラーボールマッチ認知活動及び体験機会の提供

実施期間：令和4年～令和6年

取組内容：

- ・1 Day Camp及びTennis P&S特別講習会の開催
- ・運営フォーマットの作成と発信及び実績調査
- ・<愛知モデル>による成果調査

## 計画№6 【認知向上】

### テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信

実施期間：令和4年～令和6年

取組内容：

- ・テニピン、P&Sの情報発信
- ・テニピンリーダー登録システム作成・運用
- ・公式SNSを用いた情報発信



## 計画№1【人材育成】テニピンリーダー（指導者）の養成のための取り組み

### <内容>

- ・講習会（教員・コーチ対象）立案計画・実施（東京、山梨、富山）
- ・資格認定講習会カリキュラム作成運用
- ・講習会用テキスト作成

### <成果>

- ・講習会（教員・コーチ対象）を東京、山梨、富山にて実施、**合計150名が参加し、そのうち80名が認定資格を取得登録した。**計画段階のKPIで示した**参加予定数90名（達成率160%）を達成**することができた。資格登録者90名を年度内の達成を目指す。
- ・資格認定講習会カリキュラム及び講習会用テキストについては、**出版社と連携**のもとプロットを完成させ、現在執筆作業中である。**次年度の講習会より活用予定。**

### <課題>

- ・講習会実施の際の**集客は課題**である。これまでの取り組みより教育委員会との連携の難しさを感じている。**テニス事業協会との連携**を深め、テニスコーチの参加者を増やし、児童理解、学校理解を進めたうえで、**学校に協力できる体制も構築**していきたい。

### <成果目標・KPI>

テニピンリーダー講習会累積参加数及び指導者認定数

令和5年度：90人

（参加者は150人実績160%達成／認定者は90人）

## 計画№2【認知向上】テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣

### <内容>

- ・小学校への認知向上活動(FAX 19000校に展開：9月、10月、11月の3回実施)
- ・用具提供（募集20校／申込数600校）、講師派遣（申込200校）、イベントによる実施率向上活動

### <成果>

- ・小学校への認知向上活動のためFAX等を活用した認知活動を実施した。その結果、**600校を超える用具申し込み、200校を超える講師派遣申し込み**があった。**20校の用具を提供を実施**した。
- ・テニピンの認知向上のため、全国各地で教員対象の講習会（**9か所、総勢550名参加/内一回はオンラインイベント参加150名**）や幼少期の子ども対象のテニピン教室（親子含む）を実施してきた。

### <課題>

- ・無償提供が**20校限定**であることや、**派遣できる人材不足**のため、多くの学校の期待に応えられない状況にある。抽選漏れした**学校へのサポートを地域協会と連携し構築**していくことが課題である。
- ・現在の日本テニス協会内での**講師派遣人数に限界**を感じているため、各学校でレクチャー可能な講師養成や人材確保を早急に行うべく、**テニピンマスター（テニピンリーダーを養成する資格認定者）を設立**する。

### <成果目標・KPI> テニピン導入学校累積数／経験児童数／テニス継続累計人数

導入学校数：令和5年度：600校（導入校670校実績112%）

※テニピンラケット売上数÷23人により実施校を算出／

テニピン体験数は、実施校×2.3学級により算出／体験数×0.3により算出



## 計画No3 【認知向上】 テニピン・カラーボールマッチ体験イベント

### <内容>

- ・テニピン、カラーボールマッチ体験イベント実施

### <成果>

- ・テニピン、レッドボール(PS)の融合プログラムを構築し、日本テニス協会主要大会やイベント内で実施した。具体的には、**全国7か所で総勢140名程が参加し**、認知向上につなげることができた。単独のテニピン教室イベントについても**5か所で実施し、総勢160名ほどが参加し**、テニピン普及活動に努めた。
- ・カラーボール体験イベントは、**全国179回実施**（1月15日現在）された。

### <課題>

- ・各回にて**集客が大きな課題**となった。集客方法について検討していく必要がある。
- ・また、全国各地でテニピン・カラーボールの融合イベントを実施し、よりよい普及プログラムを全国に発信していきたい。



NO.3 四日市チャレンジャー テニピンイベント



NO.3 テニピン・カラーボール体験イベント

## 計画No4 【価値構築】 テニピンの教育的価値及び教材価値向上 教本作成（①と連動）

### <内容>

- ・出版社やテニスメーカーと連携したコンテンツ開発（教科書・動画・用具等）
- ・テニピンの学術的価値の構築
- ・テニピンのテニス育成・強化及び教育（資質能力育成）との連携プログラムの構築（サステナビリティ）
- ・テニピンの小学校展開を越えた取組（共生社会）

### <成果>

- ・**出版社と連携**して、テニピンリーダー講習会の教本を作成中であり、**次年度には運用可能な状況**である。
- ・テニピンの学術的価値の構築については、**3本の研究論文が学術的に認められ、査読論文**となった。こうした成果も講習会用**教本に取り入れ、連動**させることができた。

### <課題>

- ・作成した教本や動画といったコンテンツの**効果的な発信を検討**していく必要がある。同時に、今年度は計画段階に留まった、**ガイドブックの改訂作業**を進めていく。



NO.4 講習会映像コンテンツ制作

## 計画№5 【認知向上】 カラーボールマッチ認知活動及び体験機会の提供

### <内容>

- ・ カラーボールマッチの体験イベント「1 Day Camp」と地域の中心的指導者を対象とした「Tennis P&S特別講習会」を連係して開催し、指導法を実践的に伝達した。
- ・ 各地域でカラーボールマッチを通じたテニスの「習得・習熟化」体制構築と自走的運営のノウハウを提供した。
- ・ カラーボールマッチの運営フォーマットを作成し全国に発信した。

### <成果>

- ・ 1月現在で24の都道府県において、**352大会、4,670エントリー**の実績が報告。年度内に目標値（400大会、6,400エントリー）を達成できる見込み。

### <課題>

- ・ 地域中心に発信したため、実質的な主催者の市町村協会・**各主催者カラーボールマッチの情報が充分伝達されなかった。直接的伝達機会の確保が必要。**



NO.5 カラーボールマッチ

成果目標・KPI カラーボールマッチ大会開催数／エントリー数

**R5年度：352/4,670（1月現在）達成率88%、年度内達成の見込み**

## 計画№6 【認知向上】 テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信

### <内容>

- ・ テニピン、P&Sの情報発信
- ・ テニピンリーダー登録システム作成・運用

### <成果>

- ・ テニス普及サイトの運用としては、普及webサイト情報発信の場として活用してきた結果、**発信のプラットフォームとして認知**された。また、**JTAの公式X(旧:twitter)に各イベントの様子を積極的に発信し、認知向上に努めた。**

### <課題>

- ・ テニピンは全国で認知され、実践校も増えてきていることが予測される。一方で、**実数把握は難しく、見える化できていない状況**にある。そこで、用具無償提供を行った学校を日本マップに示し、その報告書を掲載できるようにしたい。
- ・ **テニピンリーダー認定資格登録システムを早急に確立し、運用**していく。



NO.6 テニス普及webサイトの活用



NO.1 テニピンリーダー講習会講義

# 令和6年度の実施予定

## 【令和6年度の取組内容】

### 計画No.1【人材育成】テニピンリーダー（指導者）の養成のための取り組み

①講習会（教員・コーチ対象）実施：4月～3月に9地域で実施、②資格認定講習会カリキュラム運用、③講習会テキスト発行・運用を行う。

### 計画NO.2【認知向上】テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣

①小学校への認知向上活動(FAX等を活用、合計5回実施)、②用具提供、イベントによる実施率向上活動：4月～3月／用具提供は、6月・12月の実施、③ガイドブック改訂版作成を行う。

### 計画NO.3【認知向上】テニピン・カラーボールマッチ体験イベント

①テニピン、カラーボールマッチ体験イベント実施：4月～11月、②テニピン、レッドボール（PS）の融合プログラムを、JTA主要大会やイベント内で実施する。

### 計画NO.4【価値構築】テニピンの教育的価値及び教材価値向上 教本作成

①教本及び動画コンテンツ開発・運用4月～3月、②テニピンの学術的価値の構築：4月～3月、③テニピンのテニス育成・強化及び教育（資質能力育成）との連携プログラムの構築・運用（サステナビリティ実現対応）：4月～3月、④テニピンの小学校展開を越えた取り組み（幼少期の運動遊びに視点に展開する／共生社会実現対応）を行う。

### 計画NO.5・カラーボールマッチ魅力体験イベント実施

①1 Day Camp及びTennis P&S特別講習会の開催、②カラーボール大会フォーマット・効果の情報発信

### 計画NO.6【認知向上】テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信

①情報発信の場としてテニピンのサイトを有効活用、②テニピンリーダーに認定資格者の登録システムを確立を実現する、③全国のカラーボール大会開催情報の集約

## 【令和6年度の改善策】

計画NO.1のテニピンリーダー指導者養成講習会について、令和6年度では、14ヶ所420名の参加者と認定者を計画していた。しかし、実際に今年度3ヶ所実施してみて、**集客問題や教育委員会の連携など乗り越えなければならない課題**があることが明らかとなった。また、指導者養成講習会を**実施できる講師数が限定**されているため、**14ヶ所での実施は物理的に困難**である。そこで、指導者養成講習会の実施数を**現実的にできる回数である9地域**に減らし、その分、講習会の講師ができる**人材養成のための講習会を実施**することで、**実現可能なKPIに設定改善**する。

計画NO.2のテニピン認知活動について、用具無償提供20校募集を実施をしたところ、600校を超える申込があった。この事実を大切に、**無償提供を50校に拡大**するとともに、**地域協会と連携**し、地域協会予算のなかで、抽選漏れした学校へのサポートの周知を徹底していき、**日本テニス界全体で教育活動に貢献**していきたい。



**子どもたちの笑顔のために！**